

○日時：令和元年11月13日（水） 10：00～12：00

○場所：本校 会議室

○出席者：協議会委員 5名

茨木支援学校 校長 准校長 教頭2名 指導教諭 教務部長 事務長

部主事1名 首席兼部主事2名 首席2名

傍聴者 1名（本校保護者）

計 18名

○10：00～ 中学部の授業見学へ

*はじめに

（校長あいさつ）

本年度は50周年ということで、記念誌・かばん・クリアファイルを作成した。「50周年祝う会」は子どもたちでにぎやかに行うことができた。今週末は学習発表会がある。子どもたちは元気で、今のところ感染症の心配はない。この度、人権にかかわる事案が起こり、子どもは怖い思いをしたと思う。周りの子どもも辛い思いをしたと思う。保護者説明会を開いたが、皆さんに多大なご心配をおかけした。抑止力に対する力が足りなかったが、周囲の教員からの報告があったのがせめてもの救いと言える。これからも安心安全の学校作りに邁進していきたい。

（准校長あいさつ）

看護師などの協力を得て、修学旅行などの泊行事が無事終わった。これからは授業づくりなどに力を入れていきたい。パッケージ研修や全校研究も予定している。それだけでなく人権研修についてもおこなってきたい。

1. 平成31年度 学校経営計画進捗状況について

校長）特に人材育成について報告する。50周年記念に関しては溝口首席がすべて行った。校長がすべての会議に入るのはいかがでしょうか、今年は教頭や首席に役割をお願いした。それが組織の人材育成と思っている。個人情報への失敗についても、すぐに対応を考える部署がなかったので、小学部の首席をお願いしてセンターの研修も取り入れながら外の風を入れて進めている。管理職の育成年齢層が薄く、早めに首席に管理職への登用をすすめている。授業力の向上に関しても、全教員に取組んでほしいと思っているが、まずはできる人からすすめている。

准校長）進路は順調に進んでいる。滋慶学園より出前事業を実施した。医ケアについても、付き添いをお願いしている保護者の負担軽減に向けて取組んでいる。今回の事象についてはさまざまな課題があり、保護者からも要望をいただいた。本校としては保護者説明会でお示した7つの約束を実行していく。10月22日に全員で振り返りの研修をおこなった。11月27日には本校の保護者から教員に望むことなどをテーマにお話をしてもらう。12月末にセンターの研修に数名参加予定。また、年明けにNPO法人から講師を迎え研修を行う。保護者の方にも研修の様子を見ていただきたい。

司会）方向についてご意見やご質問があればお願いします。なかなか質問しにくい課題。学校の課題が一番が人権でないかと2番3番が本当かと疑ってしまう。前提が崩れてしまう。常々思い起こすことが大切。人権研修はトピックスではなく、事が起こってからいれるものではない。ずっと人権意識をもっていなければならない。忘れた頃に事が起きる。崩れた信用はなかなか戻せない。わかっているけど何とかしなければならぬ。やっつけていかざるをえないこと。保護者の皆さんは先生を信頼している。どうかそれに応えてもらいたい。

委員）学校を信頼して子どもを通わせている。それが裏切られたことがどれだけ辛いことなのかかわかっていただきたい。校長が人材を育成するといったが、ノウハウを受け継ぐ人がいないからこういうことが起きるので

ないか。その点で、早い段階からの育成を期待している。ノウハウがないとやっていけない。プロとしてやっていただかないと困るので、自信をもって取組んでほしい。信頼を重ねて卒業まで一緒に進んでほしい。

教頭) この件に関して大変重く受け止めているので、できれば皆様から少しずつご意見をいただきたい。

委員) 企業はすべて数字で評価が出る。その点教育は具体的な数字がでにくい組織だと考える。なので、その辺りを数値化できるシステムがないかと思う。企業は利益や売り上げがすべて数字でできるので、良い悪いが把握しやすい。先生方はその点が難しいと思うが、そんなシステムが可能なのかどうか。

委員) 個人情報紛失を経験し、いろんな取組みをしてきたことを風化させないためにはどうしたらいいのか。10年経ったら、生徒も教員もみんな入れ替わってしまう。そこでどのように風化させないかが重要。ひとつごとではないと思っている。就職を支援する中での叱咤が暴言になることもある。このようなことをどう風化させず、引き継いでいったらいいのか。

委員) 大阪だけなのかわからないが、最近教員を希望する人が減っていると聞いている。希望して教員になったのであれば、自信と誇りをもってほしい。支援学校だからその場限りと思っていないか。支援学校の教員は特に難しいのだから、若い人をみんなで頑張らせてほしい。

2. 令和元年度 授業アンケート集計結果の報告について

司会) 授業アンケートについて

教頭) アンケートをもとに報告

司会) 名前の呼び方についてはどうでしょうか？

委員) 呼名は男女で「くん、さん」に分けている。

委員) 会社は色々。年下には「くん」や呼び捨て、ニックネームで呼ぶことも多い。役職でよばれることもある。あまり「くん、さん」で呼ぶことはない。同僚同士もニックネームで呼んでいる。

委員) 訓練校では、訓練生同士ニックネームで呼ぼうとするのを、「さん」で呼ぶように指導している。

校長) 個人としては基本的には「さん」がいいと思う。「ちゃん」では距離が近くなり、人権侵害に足を踏み入れることになる。一步引いて見る意識を気持ち育てていきたい。

会長) 場面にもよると思う。呼び捨てされていると何か悪いことをしたのかな、と。でも基本はやっぱり、オンとオフのメリハリが欲しい。優しく「ちゃん」で呼んでほしいときもあるし、厳しく叱ってほしいときもある。全てを「さん」付けでは少し隔たりを感じる。

委員) 就労先はすべて「さん」付け。

校長) 放デイも小学部でもさん付け。それでいいと思う。

委員) ロータリーでは年齢関係なく「さん」付け。外国のロータリーの交流はニックネーム。役職や社会的な地位と関係ないので。

教頭) 地域の学校はどうか？

委員) 小学校はみんなさんづけ。放課後クラブでは子どもは下の名前で呼んで欲しい。「さん」では、学校の気分になるから嫌がる。朝など見かけるときは「ちゃん」で呼ぶ。会長が言ったように、授業は「さん」で、甘えたいときなどは「ちゃん」で呼んでほしいのではないか。

校長) 支援学校は小中高とずっと同じ場所なので、気が付くと高で「ちゃん」と呼んでしまう。気持ちの切り替えがしにくい。こちらが意識して切り替え場面転換の声かけをしなければならない。いつも緊張していなければならないわけではないが、小1と高3の扱いが一緒ではいけない。

3. 令和元年度学校教育自己診断について

首席) 学校教育自己診断のアンケート実施方法について (プリント参照にしながら)

変更点 ○マークシート方式に (昨年度までは手入力)

○教員アンケート 23 番の項目について肯定率が低かった→質問項目が分かりにくかったのでは
と考え、具体的な文言に変更。

○保護者様宛プリントについて、生徒のアンケート同様に漢字にルビをつける。

教頭) アンケート用紙についての補足。本日のものは説明用のコピーであり、マークシートはしっかりした紙を
使用。なおアンケートの分析結果につきましては、第3回の学校運営協議会でご報告させていただく。

4. 令和2年度 使用教科書について

教務部長) 今年度使用教科書を1学期末にすべて持ち帰らせた際、教科書の管理方法に問題があったため、今後
の改善策をお伝えする。

①教科書の管理方法が学部ごとに違っていたものを整備して全校統一したものにする。具体的には年度末の
教科書持ち帰りの際、継続本についてはカウンセリング室に保管する。

②4月に使用教科書リストを持ち帰り、児童生徒と保護者、担任それぞれが教科書の把握を行っていく。

続いて、令和2年度の使用教科書についての説明 (表のプリントを参照しながら)

⇒8月30日付で大阪府の採択決定が下りています。

司会) 教科書を見ていただく取組みは良いこと。学校の方から、このようにしていますよと保護者に提示して示
してあげると安心する。ぜひ今後も続けていただきたい。

委員) 中学部の国語の教科書で、1~3年生まで同じになっているのはなぜか。

校長) 縦割りのグループで教科書を使用して学習しているので、そのように表記されている。

教務部長) 補足として、3学年とも来年度教科書を変更し初めて採択するのでそのように表記されている。来年
度一旦使用してみて、継続して使っていこうとなれば、再来年度使用のリストには他の継続本と同様に1
~3学年のように表記されることになると思う。

5. 意見書について

教頭) 特にいただいておりません。

6. その他 まとめ

司会) 本日の議題は終了です。

教頭) ご審議並びに貴重なご意見ありがとうございました。

教頭) 次回の第3回運営協議会は 令和2年1月29日(水) 10:00~です。

【配付資料など】

①次第 ②学校経営計画 ③授業アンケート(1学期)集計結果

④令和元年度 学校教育自己診断実施要項ならびにアンケート用紙 ⑤令和2年度使用教科書図書 一覧表

⑥50周年記念誌・記念クリアファイル・トートバック・茨木体操リーフレット